

“鉄より堅く逞しき”

生徒指導通信 第38号
令和4年2月28日発行
黒沢尻工業高等学校

○『^{そつたく}啐啄同時』

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響により、高校生にとっての一大行事である文化祭や修学旅行をはじめ、国民体育大会等のスポーツイベントも中止・縮小されてしまいました。高校生活の大半を2年前まで普通だった状態と同じように過ごせなかったことは、大変残念であり、可哀想でなりません。それでも、限られた環境の中で工夫しながら様々なことを体験できたことは、人間関係の大切さを学び知る上では貴重だったのではないのでしょうか。

3年前の自分と今の自分を比べてみてください。人それぞれに個性があり、輝ける場があります。違いはあっても、皆成長を遂げていることに気づけるでしょう。その中で、入学して初めて学ぶ専門科目の授業や競技レベルの高い部活動等で、指導して下さった先生方との出会いを思い出してください。こんな大変な世の中でも、熱心に指導して下さった先生方。その指導をしっかり受け止め、こうして卒業の日を迎えることになったことに、感謝の気持ちを抱いてもらえればと思います。

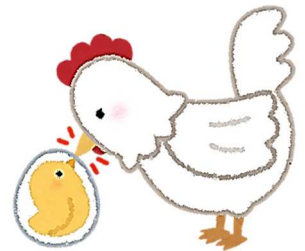
正しく導いてくれた師匠（先生）と弟子（生徒）の関係を表した言葉が、『啐啄同時』です。

「啐」とは、卵の中のヒナが“もうすぐ生まれるよ”と内側から殻をつつく音。

「啄」とは、卵の変化に気づいた親鳥が、“ここから出てきなさい”と外側から殻をつつく音。殻を破ろうとする思いと、それを導く側の思いがピタリと同時に行われるというのが師弟の理想というわけです。

我々教員は、卒業式の日晴れ晴れとした表情で卒業していく生徒の姿を見る度に、やりがいを実感できます。厳しく指導したこともありますが、それは皆さんの成長する姿を見たい一心で行ってきたものです。

これからの人生には、辛くて苦しいことも待ち受けているでしょうが、黒工で学んだことを生かして楽しい人生を送ってください。期待しています。



○『行動非行動の法則』

つい先日まで、某生命保険会社のテレビCMで、人気漫才コンビのバナナマンが『行動経済学』の理論の1つである『行動非行動の法則』をコミカルに表現していました。その中で「行動しなかった後悔の方が、行動した後悔よりも大きい」と語っています。まさにそのとおりだなと感心しながら観ています。

「あの人と仲良くなりたかったのに、どうしたらいいか分からなかった。もっと自分から話しかければ良かった。」「練習中に仲間に注意しておけば、試合中にあんなミスをしなくて済んだ。」等、思い返すと色々な後悔が生まれます。

何も知らなければ、全て“仕方ない”で終わってしまうでしょう。「コミュニケーションが苦手だから」「どうせわたしが言っても伝わらないから」と言う具合に、“どうしようもないもの”“何ともできないもの”として捉えて、その結果、あきらめる、逃げる... ということが続けてしまいます。

行動パターンを変えるのは、面倒くさくて難しいと思っている人がいると思います。それでも、後悔の度合いを考えれば、意識しておいた方が得だとは思ってもらえるはずです。

4月から新たな環境に身を置く人たち。進級して立場が変わる人たち。そろそろ、自分の可能性を信じて挑戦してみる意識を持ってみてはいかがでしょうか？

この通信を通して、何度もコミュニケーションの大切さについて触れてきました。“しなかったときの後悔”をする人が減ったらいいなと思います。